

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市あじさい大学運営委員会 あじさい大学見直し検討部会 (令和3年度第1回)		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課 電話042-769-8354 (直通)		
開催日時		令和3年4月16日 (金曜日) 14:00～:15:10		
開催場所		相模原市役所会議室棟2階 第3会議室		
出席者	委員	5名 (別紙のとおり)		
	その他	3名 (相模原市シルバー人材センター職員2名、オブザーバー1名)		
	事務局	4名 (高齢・障害者福祉課長 他3名)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 議題 (1) 令和4年度以降のあじさい大学について (2) その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

佐藤部会長あいさつ

3 議題

次第に沿って、佐藤部会長の進行により議事が進められた。

(1) 令和4年度以降のあじさい大学について

ア 事務局から資料に基づき説明した。

【主な質疑】

(池田委員) 3ページですが、「あじさい大学を受講したことがありますか」の質問に約2割の方から「ある」と書かれていますが、回答をくれた人の2割ということであると思います。どのくらい的人数ですか。

(佐藤部会長) 回答された数が175件なので35件くらいですか。

(事務局) そうです、回答者数は175件です。

(佐藤部会長) その内の2割ということは35件になりますか。

(池田委員) その他の人は受講したことがないということですか、8割の人は。

(事務局) そうです。

(池田委員) わかりました。

(堤副部会長) 老人クラブ連合会の会長や理事の方にアンケートを取っているということなので、多分会議とかが忙しく日程調整等でお忙しいから少ないということもありえますか。そうすると一般の会員とは、その辺のアンケートの結果は誤差が出る可能性というのはあると思います。

(事務局) そうです。おっしゃるとおりです。

(池田委員) 4ページのアンケート結果で南区が意外と「会場が通にくい」という回答が多かったということですが、相模大野付近に設置したからという説明だったと思うのですが、南区の人が12%通にくいと答えたということですか、それとも全体で12%ですか。相模大野付近に会場があるからという説明をされたような気がするのですが。

(事務局) 緑区の方がイメージとしては、会場が橋本にあるので、津久井などの旧町の方が通いにくいかなと思っていたのですが、南区でも相模大野近辺があじさい大学の会場となっていて、そのような所に通いにくい方が思ったよりも多かったということです。

(池田委員) これは南区の人の回答ということではないということですか。

- (事務局) そうではございません。
- (池田委員) それでは押し並べて、中央区の人でもない、緑区の人でもないということですか、それぞれのパーセンテージで出ているのは。
- (事務局) そうです。通にくい場所だったからというのをお答えになった方が、全体の中では55人いたのですが、全体の回答数に対しての割合です。こちら7項目ありますが、一人3つまで回答可能としたので、分母の数が回答者数とは異なります。
- (板倉委員) 先ほど説明にもありましたが、5ページの期待する分野についてということで、2番目の「ボランティアなどの地域活動促進・支援分野」が2割強と出ていますが、これは前回出された意見の中で、地域づくりや社会参加について、トップに書いてある内容とやや同じような内容ではないかと思っているのですが、特に高齢者の社会参加と生きがいづくりというのが、思ったより地域社会が大きく変化をしているのではないかと、私は老人会をやっていて捉えています。その中にはやはりこのようなことに関心というか、地域がどうあるべきかということを考える人達が多いのではないのでしょうか。この中の2割というと相当大きいと思います。
- 変わり方というのは皆さんご存知だと思いますが、人と人の連携や人間関係、それから地域団体の弱体化。今まであった地域団体がほとんど地域団体としての役割をしていなかったりと、そういうことがあるので、話題になればますます良いかと思えます。ですがこの前の会議の時に、やはり超高齢化社会を目の前にして、地域がひとつひとつ連携が失われていっている中で、どこかでそれを支える、いわゆる理解者ですか、そういうものに対して目を向けるような、やはり地域の人達がたくさん出ることを願ってやまないという考え方からで、今のような話をしているわけでございます。
- それから、もう一つ付け足します。あじさい大学の目的を読むと、高齢者の社会参加と生きがいづくりというのが、基本的にあじさい大学のねらいなのであると思います。それが目的であり、それが各あじさい大学コースのねらいとしてやっていますので、まあそういうところも大きいかなと。ただ今度対象者が15歳以上ということで、多少その辺がぼやけてくるかなという感じがするのですけれども、やはり現実をよく見たことが必要ではないかと思えます。
- (佐藤部会長) 貴重なご意見ありがとうございます。今のはご質問ではなく、板倉委員のご意見ということでよろしいですか。何か事務局の方で補足はありますか。
- (事務局) 特にありません。
- (佐藤部会長) 先ほど堤副部長もご指摘いただいたように、この老人クラブ連合の会長や理事、要するに幹部の方達は非常に問題意識が高くて、社会参加の重要性に非常に危機感を持っていらっしゃるし、ご自身もそういうこ

とをなさっていて、そういった中から結果としては、22.4%という大きな形で、やはりボランティアなどの地域活動促進や支援が必要など、本当に高い関心を持っていらっしゃるなどというのが、このアンケートで出てきたのではないかと思います。

他に何か確認しておきたいことはありますか。よろしいですか。

今もう板倉委員からすでにご発言いただいておりますけれども、これからは今後これらの資料をもとに、あるいは今までの皆様方のご経験をもとに、今度あじさい大学をどのようにしていくのかということ。大きなフレームとしては、既存の市民大学の中にあじさい大学コースというものを設立しながら、その中で、うまく市民大学でカバーできるものはしていこう。そして、カバーできないもの、あじさい大学の本来の目的をしっかりと実現できる学科について打ち出していこうというのが事務局からご提案頂いている大きなフレームでございます。私共検討部会としては、なるべく良いものにしていくために、いろいろとこのような点を注意しましょうとか、このような点はもっと評価した方がいいとか、そういった観点からご発言をいただければと思います。以降は自由にご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(八木(朋)委員) あじさい大学という新しいコースが出たのですが、7ページの図を見えています。あじさい大学の新しいコースの対応想定学科を見ると健康増進、仲間づくりもできるのかなというイメージがあります。市民大学の中に入った上で、このコースの特性というのを前回申し上げましたけれども、どのように周知していくのかという辺りを考えた周知の仕方が課題になってくるのではないかと思いますとともに、今一つありました社会参加したいという高齢者の方々の思いというのを受け止める受け皿というのは、この3つの中でどの辺にあるのかという、それをここで設けるのか、他の所管でやっていくのか、その辺の線引きというのがあるかとは思っておりますけれども、高齢者の方の意識が大変高いという嬉しい情報が入りましたので、そういうことを考えると、後々そのような講座があじさい大学コース、高齢者のための健康増進、仲間づくり、社会参加という感じのイメージができてもいいのかなと思います。今はこれで良いと思いますけれども。

(佐藤部会長) 貴重なご発言ありがとうございます。

このようなご発言を頂いたということを部会としてまとめさせていただいて、それを今度の運営委員会でご提示していく、ということでございますので、どうぞ自由活発なご発言をしていただければと思います。

(池田委員) 今までのあじさい大学は皆さんご存知のとおり、どちらかという趣味とかいろいろ自分達が参加していく。学問を先生が座学のようにいろいろやっていくというよりは、体育ではないので体を動かすという語弊がありますが、技術にしても何にしても自分が実践してやるということが主だったような気がするのです。そこを市民大学はイメージ的に違

うのかもしれませんが、確かに彫刻とかそういうのはありますけれども、そういうのを別にすると、どうも大学の座学的な感じを受けてしまう。それはやはり、ベテランというか高齢の方がそういうのにそんなに行くかなというのがどうも気になります。自分が何かをしたいというのが主なのではないかな、という気がどうしても持っています。

だからちょっとこれ言い方はすごく悪くて、あまり言えないことですが、なにかこれ、なかなか皆さんから出てこないのですけれども、市の財政がひっ迫していて、こういうのを少しでも減らそうというのではないかなという感じをどうしても受けるのです。あまりこのようなことを言うてはいけないが、でもどうしてもそういうふうにとれます。

であれば違う意味でのコストを下げる方法も考えられるのではないかと思うのです、コストがかかるということであれば。どうもそのあたりが気になります。

確かにあじさい大学、板倉委員が言われたことはもともとで、素晴らしいことなのですけれども、多分それを考えられているのはトップだと思います。一般的な人がそこまで考えるかなと。自分が楽しみたい、生きがいだとか、仲間としゃべれるとかそちらの方がやはり主な気がしてしょうがない。どうも外した9学科は、みんな趣味的なことですよ。どうもこれもひっかかる。あじさい大学の今までの経過を見ていると。文学というのは確かにこうあるからそのまま移行できそうで、こちら辺の網掛けの黒い部分もうまくいきそうだが、とは言え、これ全部削っていいのかなという気がどうしても残ります。個人的な意見ですが。

(佐藤部会長)

貴重なご発言ありがとうございます。そのような意見も当然代弁をしていただいていることになるので、貴重なご発言だと思います。ごくごく一般のご高齢の方の視点からそういうふうなご発言をいただいたということで受け止めました。ありがとうございます。

(板倉委員)

12ページですが、あじさい大学コースへの見直しによる効果について講座内容の充実と書いてあり、実技と講義の組み合わせなどの工夫をしやすくなることと書いてあります。私は実技が入ったことで相当考え方が広がったかなという感じがしますし、さらにここを広げていただきたいという思いです。と言いますのは、高齢者の方でもそうですが、講義を受けただけで帰るのではなくて、やはり自分達の経験だとか、日常のことだとか、講義に対応する内容だとかということに、直接自分の意見を出せる場をできたら作ってほしいということです。そのために少し理想はありますが、調査をするとか、また1つのことをお互いに調べていくとか、研究していくとか、それからグループで話し合うことによって内容を焦点化していくということ、ぜひ日常生活や又は経験している高齢者の中から、そういうものをもとにして、ある結論を導くような方法論が、こういう講座の中で設けられれば、さらに活発になるのではないかなという感じがします。というのは、目線を講師から受けたまわ

るのではなく、学習される方自身がどのようにその問題に向かっていくかというような、生涯学習という言葉がありますけれども、そういう立場からそういうものに、どういうふうに自分たちが向き合って接していったらいいかということが、これからの学習ではないかなと思って、そのようなことを言っています。

(佐藤部会長) 貴重なご発言ありがとうございます。講座内容の充実については、実技、講義だけではなく、実技以外に特に調査研究をしたり、グループで話し合いをしたり、それが学習する側の立場でその講座が生きてくる、そういう視点も必要だというご発言でした。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(堤副部会長) まず何でもそうですが、変わる時って一番大事なところだと思うのです。あじさい大学のベースがやはり社会参加、それから生きがい仲間づくりという、そのところの先ほど八木委員が言われたように、ここがこのように変わったという周知の仕方が多分一番大切だと思います。ですからその辺のところをやはりご理解を得ていかなければいけないというのが一番のメインではないかと思えます。

やっっていけば、財政上とかいろいろな問題は出てくるのですけれども、最初の取っ掛かりだけを、あじさい大学がこういう形になりましたという周知を念入りにやると。割ともう仕方がないことじゃないですか、変えなければいけないわけですから。先ほど老人会の会長がおっしゃたように、あじさい大学の生きがいづくり、それから社会参加、仲間づくりが、ある程度学問するだけではなく、というところを改めて初心に戻って整えた方がいいなという気がしました。個人的な意見として。

(佐藤部会長) 貴重なご発言ありがとうございます。今までの皆様方のご発言に付け加えて、こんなことを思いついたということがありましたらご発言ください。個人的なご意見もどうぞ。むしろ個人的な意見を頂いた方が、実態に合った形で新しいあじさい大学が開校できると思えますので。

(八木(朋)委員) あじさい大学の学科数がかなり少なくなっているというところで、やはり周知の段階で、何に特化したコースなのか、あじさい大学コースというのは何を目的とするのか、こういう狙いのこういうコースなのだ、というのがわからないと、15歳以上の方が参加されるようになりますが、何も無ければ、参加の具合はわかりません。自分が高齢者で参加しようかなと思う時に、コーラスは若い方も好きで、私も行っていいのかしらと思うかもしれないですけども、こういう思いを持っている方はこちらの市民大学コースの方へ、こういう思いを持っている方はあじさい大学コースへどうぞという、そのような周知の仕方がはっきりされれば、入ってみただけでも少し違った、という思いがなくなると思えます。

(堤副部会長) そう思います。年齢に幅がありますから。

(事務局) 参考ですが、あじさい大学の今までの平均が72歳ぐらいです。市民大学はと言うと、市民大学もけっこう高齢で68歳がだいたい平均で、

やはり少し高齢化が進んでいる。そのような状況が一応出ている感はあります。ただその中でもなるべく、幅広い世代との交流などができればと考えているところではあります。

(堤副部会長) そうなってくると若い人にどう周知していくかということも考えていかななくては行けない。

(事務局) それは市民大学の方の話になってくるのかもしれないです。

(堤副部会長) そちらも考えないといけないことが出てきますね。

(事務局) いまのは参考としていただければ。

(佐藤部会長) 確か市民協働のこれも受講者があまりいないということをお前回か前々回に説明がありましたか。

(事務局) そうです。昨年ですと10数人。平成27年からやっており、延べで100人ほどしかまだいません。年間10人～20人の間でしか、受講者がいないという状況です。

(佐藤部会長) その受講者の年齢層がもしおわかりになれば教えていただけますか。あとで調べて教えてください。

(池田委員) この大学は講座をやったり、何か座学をやったりと何回かやるのですか。皆さんが受講して、延べ100人ということですか。

(佐藤部会長) 前回の資料か何かで相模大野のユニコムプラザさがみはらで運営しているという話でしたか。

(事務局) 基礎コース、応用コース、専門講座というのがあり、例えば基礎コースでは「協働とは何か～地方分権と協働～」というのが6コマあり、「相模原を知ろう、学ぼう」「協働の考え方と様々な協働のかたち」「今さら聞けない『市民活動のための知っておくべき法律入門』」「さがみはらの未来～住む街をアピールする～」というシティプロモーションにつなげるようなこと。こういった講座が基礎コースとしてあります。

応用コースは、「地域づくりのためのファシリテーション」ということでファシリテーションの仕方を学ぶ。簡単にいくつか抜粋して説明しましたが、専門講座ですと『子育て』で地域とつながる！さがみはらの教育福祉」「地域が元気になる！健康づくり教室」「身近な環境を守る～次の世代へつなげる～」「地域を掘り起こす！さがみはらの地域資源」という地域資源、郷土の歴史などを掘り起こす講座等もあるようです。

(池田委員) それらの講座から卒業して行われたのが、この資料にあるものですか。

(事務局) そのとおりです。その中でコーディネーターズサークルというのが修了されると運営できるそうでした、そこからこういった発展したことが行われているのかと。

(池田委員) 中央区で何ですか、ぶらさんぽか何かやっていますか。ここから出たものですか、あのような事業は。それとはまた違う。あちこち散歩して、何かつけてもらって、ずっと周ってきてやっていますか。

(事務局) それは区役所の事業でやっているものです。

- (池田委員) それはまた別の、こういう卒業生がそういうのをやろうってことじゃないということですか。
- (事務局) 区の魅力づくりという事業で区役所の方で主催してやっているものです。
- (佐藤部会長) 私自身気になっていることがあって、池田委員のご発言の中で、やはり今まで一般の受講者の方達、あじさい大学の受講者の方達が趣味とかご自分の好きなことをやって、それを楽しみにしていると、そういう方もけっこういらっしゃるということ、本当にそのとおりでと思うのですけれども、その方達が当然今回のこの枠組みでいくと、無くなってしまいます。ただこの図でいくと民間活力の活用想定と書いてありますよね、7ページの丸が3つある内の一番左端の丸になるのでしょうか。9学科、書道の学科が2つ、民謡、詩吟、文芸、デジカメ、手芸、園芸、俳句、まさに先ほど池田委員がおっしゃった、趣味の講座、ここの部分をどのように今までの受講者の方達に理解をいただいて、市民大学の中のあじさい大学コースには無くなってしまいますのですと。そこをどのような形で、いわゆる民間活力ですから、民間のカルチャーセンターなどでやっているものと競合しているわけです。そちらの方に行ってくださいという言い方はちょっと違うと思いますけれども、その部分をもう少し何かこういいアイデアですか、そういったことを思っている方達に新しいあじさい大学はこうなので、そこも大事で、何て説明してあげたらいいのかなのところが、自分の頭の中でちょっとどのように理解をいただいて今度の新しいあじさい大学を進めていくのかな、というところがモヤモヤしているところなのですけれども。何かその辺で池田委員何かいい案はありませんか。
- (池田委員) 書道でもなんでも、水彩画もそうですけれども、上手になってきてある程度レベルが上がるとあじさい大学から出ていく、あるいはその先生に直に付かれる方が多いのですよ。最初はきっかけでやられて、それでそのまま残っていくという感じであると思う。そういう方は多いのです。書道もそうだし、そこに付いていくとか、水彩画もそうだし、美大の先生など色々いらっしゃると思う。卒業されるとその先生に付いていく。そういう意味ではきっかけとしてあって、友達同士になって一緒に行きましょうとか、あるいは卒業した人達はそのグループを作って、その先生を呼んで受けるというグループが多いです。OB・OGサークルとかの組織を作って、それで楽しんでいくという方がすごく多い。きっかけになっているのは事実ですけども。そこら辺がすぽっと抜けて、強いて言えば書道。水彩画、水墨画が残って、なぜ書道は残らないとか、細かく言うと理由がわからないのです。なぜだと問われた場合に。そこら辺がちょっとひっかかる。早い話が、これはもともと市民大学にあったからということなのでしょう。そう説明せざるを得ないのです。これは特化できるからこっちへとか、科目がたまたま市民大学にあるからこ

っちに行ってください。無いところはやめますよ。それだけの話であると思う、簡単に言えば。皆さんそのくらいのことは気が付きます。だからすごくこれは難しい。

(堤副部会長) 生きがいつくりとか仲間づくりは趣味から出てくるものだと思うのです。自分がやっている趣味の所から多分出てくるから、ちょっとこのところも趣味のところがかう違うところにね、無くなったり。

(事務局) ですので今までのあじさい大学のOB・OGサークル、そういったものをご紹介、チラシとかを頂ければあじさい大学コースの中でご紹介することはできると思います。回数は減ってしまいますので、その中で仲間づくりまでできるのかと、そういったものを含めると、今までであるOB・OGサークルや趣味で活動されているサークルなどに誘導すると言いますか、その方法になってくるのかと。

(佐藤部会長) 池田委員のおっしゃるように、端的に言えば、もともと市民大学コースにあったものは残すけれども、無いものは民間ですよというのはこうやって見ると確におっしゃるとおりです。事務局が言ったように、卒業生の方達がサークルを作っている、新しい仲間を募集しているようであれば、行政の方、あるいはそういう宣伝をする場面をどっか市民大学の方でも作っていくとか、市民大学を周知する時にそういったことも合わせて周知するとか、ニーズに合った形で情報を発信していくことがけっこう重要になってくるのかもかもしれません。

(堤副部会長) 誘導するしかないですね。そちらの方に。

(佐藤部会長) そうですね。今までないですが、こういうサークルがありますよとか、こういう先生がいますよとか、そういうかたちになるのですか。

他に何かいかがですか。こういった枠組みの中でやっぱりこれを表に出していく時に、いろいろなことをお考えの方がいらっしゃるのか、いやもっとここはこうした方がいいなどがあれば、ご発言いただければと思います。

それで事務局の方で、先ほどの地域づくり大学の受講者の平均年齢はわかりましたか。10数人いる人達の中で、年齢層は。

(事務局) 手元の資料ではわかりませんでした。

(佐藤部会長) あまり若い人がいるとは思えない。どちらかと言うとリタイアする前ぐらいの57、8ぐらいの人がこれから社会参加をしていくのに、60の定年になるので、今のうちに勉強しておこうと。それでいろいろなファシリテーションの能力を身に付けたり、相模原のことを勉強して定年したら何かやっというかイメージしているのですけれども。だから60前後ぐらいかと想像はしています。

いろいろな視点でご覧いただきたいです。こういう枠組みの中であじさい大学をリニューアルするということで、注意しておかなければいけないこととか、こういった視点からも見ておいた方がいいとかあれば、お気づきの範囲でご発言いただければと思います。

- (堤副部長) 感染予防もしばらくはあると思いますからね。会場の都合もありますから。
- (佐藤部長) ワクチンを打ったから安心というわけではないですから。
- (池田委員) 質問ですが、あじさい大学で講座名がずっと出ていますよね。この文学9だと中世文学とか、歴史だと世界史だとか書いてあるけど、どれでもいいですけど、例えば中世文学というのは古今集とか土佐日記と結びつくのですか。これ多分全然違う話ですよ。だからこれを中世文学で限って、例えば古今集を勉強している人は市民大学に行ってそれはぴったり合っていていいのですけれども、漠然と中世文学と言われると、受けた人がこっちに移れるということでもないですよ、多分。日本史も古くからずっとあるし、どこの部分を好きなのか、習いたいとか、そこら辺が今まで受けていたのがよくわかりませんけれど。パソコン6のワードエクセルとかしっかり書いてあればわかりますけれど。
- (事務局) 令和2年度にあじさい大学で予定していました中世文学としては、今昔物語に特化した講座というふうな、近代文学ですと夏目漱石、森鷗外、上代文学であると万葉集、平安文学だと源氏物語、そのような募集をかけておりました。
- (池田委員) 市民大学の方は例えば平成14年度は古今集と土佐日記ということで募集をかけていたのですか。それとも中世文学でやってみたら、土佐日記と古今集だったよと、そういうことですか。
- (事務局) 大枠が、ちゃんと中身が説明されて募集なのかということですか。
- (池田委員) そこら辺で、受ける方も古今集ならしょっちゅう読み慣れているからいいやと思う方もいるかもしれないし。こっちも同じだけど、あじさい大学も中世文学なら、今言った今昔物語と書いて募集をかけるとか、そうじゃないかと。そこら辺で、万葉集ならぜひ受けたいと思うかもしれないし、そうでもないやつだとか。
- (事務局) 市民大学の応募の際には、コースごとに1回目はこういうコースでこういう話をするなどのかなり細かいお知らせをして募集をしています。
- (池田委員) それならわかりました。以前見た資料でした。あじさい大学はどうなっていますか。
- (事務局) あじさい大学は24回なので、そこまで1回ごとの説明はありませんが、先生の説明の学科紹介の中で併せてお配りし、何をやりますというのを書いてあります。
- (池田委員) 一応応募される生徒さんはこれなら受けたいと絞って入ってくるということで。
- (事務局) はい。
- (板倉委員) 11ページのあじさい大学からの主な変更点についての、変更内容を読んでいて意味がわからないところがあるので、ちょっと詳しく教えてもらえますか。
- (事務局) 11ページ「イあじさい大学からの主な変更点について」説明。

- (板倉委員) 何かこう限定されることが多いのでどうかなというふうに思って、まだ全体がつかめてないので、言いようがない。ありがとうございます。
- (佐藤部会長) 統合されることでいいこともあるし、悪いこともあるし、そんな一覧表ですよ。一番最後の役割分担の廃止なんて、皆さん確かアンケートで班長とかやりたくないという方が多かったからそれが無くなってそれはよかったですね。ただ講座が減っちゃうのは嫌ですねとかそういう話なのですね。高齢の80歳以上の方は今まで優遇措置があったけれども、今度市民大学になると無いですねとか、そこはデメリットになるのですね。そういった所はちゃんとお示しした上で、総合的に判断していただく形になると思います。ここのことについて、これも案ですからこういった所は改善した方がいいとかお考えがあればお聞きかせ願いたい。他の方もご発言いただいてもかまわないので。
- (八木(朋)委員) 優先入学の規定を見ると、これまでに1度もあじさい大学への参加実績がないとあります。そうすると先ほどの7ページの表で例えば、15歳以上ですから、太極拳とか健康体操とか参加者が40代、50代、60代、70代、80代とさまざまな方が大勢応募してくださったという嬉しい状態があるとして、募集人数を超えたら、年齢としての優先が無いわけですよ。抽選ということになると、高齢者の門が狭くなるというのですか、高齢者の方が今までいけていたところが狭くなりほしくないかというのをふと思いました。例えば60代以上の方を優先しますとなれば違うのでしょうかけれども、太極拳やってみたいという方がダートと来た場合にどういうことなのかなとちょっと考えておいていいのかと思います。
- (板倉委員) そうであると思います。
- (佐藤部会長) 貴重なご指摘ありがとうございます。確かに人気のある講座は高齢の方が今までは優先になっていたけれども、無くなってしまおうとなるとね。これは意見として、提言ではないですけど入れておきましょう。今のような観点からのご発言、お気づきの点があればおっしゃってください。11ページの表の中で、こんなことが変更されるけれども、こういった点は注意した方がいいです、みたいなのがあればお願いします。
- (堤副部会長) もしここで太極拳でも健康体操でも優先順位が無いわけで、大勢来たら抽選になりますよね。そうした場合、例えばここに今度は対象者の年齢が今までは60歳以上でした、でも今回15歳以上になると、例えば募集人数10人だとすると、15歳の方が5人、例えば80歳以上の方が5人、となって10人来た場合に授業内容が心配になっていまして、そんなことは無いようにするのか、でも実際的に抽選になったら無いとは、可能性としては0%ではないわけじゃないですか。そうした場合、講師の方はこういった方面で、仲間づくりだったら、そこでお互いに受講者の方が納得すればいいのだけれども、個々の方がそこで魅力を感じるのは各々で多分違うのかなと思ったり。

- (佐藤部会長) 非常に鋭い指摘だと思います。十分にありえます。15歳から幅が広がったので、講師の先生だって大変ですよ。
- (堤副部会長) 自分が逆の立場だったらちょっと。
- (佐藤部会長) 80歳の人と15歳の人を指導するのは、そのようなことも課題としてはあるということ。
- (事務局) そうですね。先ほどもありましたが募集をする際に、太極拳と言ってもどういうことをやりますとか、中級コースや初級コースなどそういうものをお示ししながら、募集はかけるのかと考えております。
- (堤副部会長) そうしないと、アバウトだとわかりにくいので。
- (事務局) おっしゃるとおりかと思えます。ありがとうございます。
- (佐藤部会長) 他にいかがですか。
- (事務局) 補足ですが、市民大学ですと、座間市と一緒にやっており、だから座間市の方も一応参加していただけているのですが、ちょっと今、座間市の方でもこういうあじさい大学コースを市民大学に含めたいということを検討していますと伝えてはいますが、座間市があじさい大学コースも一緒に加えてくれというのはまだ回答が来てないので、場合によってはあじさい大学コースを加えても、相模原市民の方だけが対象となる可能性が今はちょっと高いのかなと。また何かあればご報告させていただきます。
- (佐藤部会長) 運用の仕方でも、もしかしたらいかようにもなるということでは理解しておきましょうか。貴重な発言ありがとうございます。他にいかがですか。
- とりあえずこの辺で今後どうしていくかという議論を少ししておかなければいけないので、こちらの方に移らせていただいてもいいですか。また途中で思いついたものがあれば、ご発言いただいてもけっこうです。
- 進行上、議題は同じですが、今後これをどのようにまとめていくかということについて、話し合いたいと思います。まとめるにあたり事務局の方から何かご提案があればちょっとご発言いただければと思います。
- (事務局) 皆様からの貴重なご意見をいただきまして、メモをしたのですが、文書化等をさせていただくにあたり、残り1時間程ではできそうにないので、お時間をいただきたいと思えます。その中で皆様の思いであるとかご意見を大切にさせていただきますので、事務局にまとめの方をお任せいただき、確認等をコロナ感染者数が増えている事態で、あまり皆様をお呼びすることもはばかられることから、正副部会長にご一任いただければと思うのですがいかがでしょうか。今度の7月の運営委員会にご報告いただく前に、皆様にはこのような形で正副部会長にご確認していただきましたという資料を郵送いたしますので、いかがでしょうか。
- (佐藤部会長) 事務局からこのようなご提案を頂いたのですが、まとめをしていただいて、ただ時間がかかるということなので、事務局の方に一任をぜひ私としてはしたい、させて欲しいのですがそれではよろしいで

すか。それでまとまったものはコロナでまた何回も集まるのはということなので、正副部会長ということで、私と堤副部会長で見させていただいて、修正をするということでそういう理解ですね。それで固まったものを再度委員へお渡しする。そこで修正があればそれは大丈夫ですか。

(事務局) はい。

(佐藤部会長) ではそのような形で、一回事務局の方でまとめていただいたものを私と堤副部会長で拝見させていただき、校正したものを今度それぞれ全員の委員さんの方に郵送でお渡ししますので、そこでまた補足ですとか、あとご発言の趣旨がちょっと違っているなどがあれば、そこでまた訂正をしていただいて、それを送り返していただいて、最後まとまったものを7月頃に予定している運営委員会の方にご報告するというのを今ご説明いただいたのですけれども、いかがでしょうか。そのようなことで進めさせていただいてよろしいですか。

(全委員) (同意)

(佐藤部会長) ありがとうございます。ではそのように事務局の方が大変かもしれませんが、ぜひ皆さん一人ひとりの意見を汲み取っていただいて、それをこの見直し検討部会の意見のまとめということで、運営委員会の方にご報告させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

そうしましたら、そのような形でやらせていただくので、一応何か言い忘れたとか、さっき忘れていたけど今思い出したとかあれば、ご発言いただければと思いますが、よろしいですか。

はい、それではこれをもって今日の部会は終了させていただきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

(2) その他
なし。

閉会

あじさい大学運営見直し検討部会構成員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	佐藤 暁	市スポーツ協会 常務理事	部会長	出席
2	堤 道子	民生委員児童委員協議会常任理事	副部会長	出席
3	板倉 忠臣	老人クラブ連合会副会長		出席
4	八木 鉄雄	民生委員児童委員協議会常任理事		欠席
5	八木 朋子	学識経験者		出席
6	池田 直道	市文化協会 会長		出席

(敬称略)